～何を基準に選べばいいの？～

⇒使用目的で選びましょう！

使用目的	生ごみ処理容器の種類
生ごみを減らしたい！無くしたい！ （減量化）	・電動式生ごみ処理機（乾燥型） ・土壌混合型 など
生ごみ堆肥を作ってガーデニングや家庭菜園に活用したい！（堆肥化）	・コンポスト化容器 ・密閉式容器 ・電動式生ごみ処理機（バイオ型） など

○生ごみ処理容器の種類及び特徴

	非電動式			電動式生ごみ処理機	
	コンポスト化容器	密閉式容器	土壌混合型	乾燥型	バイオ型
処理方法	微生物によって分解する方式			温風等で生ごみを乾燥処理する方式	微生物によって分解する方式
設置場所	屋外	屋内･外	屋外	屋内･外(屋外用コンセントが必要)	屋外(屋外用コンセントが必要)
本体価格（目安）	約3千円～2万円		約1万円～2.5万円	約2万円～8万円	
電気代	なし			月　約2百円～千円	
基材の内容･価格	落葉、腐葉土、米ぬかなど	発酵資材（ボカシ）1回1ｋｇ5百円程度	黒土など	必要なし	バイオ材　2～5千円程度(約1年サイクル)
堆肥のもと（1次処理後の堆肥材）	多く取り出せる		堆肥として使用可能（ただし堆肥目的でないため土の補充が必要）	乾燥物が取り出せる。(臭くならずこのまま一般ごみにも)	取り出せる
メリット	比較的安価。生ごみが多く出る家庭にも対応可能。	容器の蓋をきちんとしておけば、虫が発生しない。	適切な使用方法であれば、虫や臭いが発生しにくい。	臭いや虫が発生しない。	分解するため、容器内の量があまり増えない。
デメリット	大きいと全体を混ぜづらく、悪臭や虫が発生しやすい。	発酵資材の補充が必要。	コンポスト化容器と比べて高価。	高価。電気代がかかる。乾燥中の臭い。	高価。電気代がかかる。バイオ材の補充が必要。

※1次処理後の堆肥材は、土と混ぜて発酵させる（2次処理）。
※上記の表は、相模原市の助成実績を元に作成したものです。各容器の詳細につきましては、各メーカーや販売店に御確認ください。

○助成実績のある生ごみ処理容器一覧表

メーカー名	商品名	種類
三甲（株）	コンポスター	コンポスト化容器
アイリスオーヤマ（株）	エココンポスト	
新輝合成（株）	ミラクルコンポ	
WORTH GARDEN	大型車輪付回転式コンポスター	
エコ・クリーン	自然にカエルＳ	
	ル・カエル	
アイリスオーヤマ（株）	生ごみ発酵器	密閉式容器
（株）伸和	キッチンコンポスト	
（株）ＥＭ生活	マジックボックス	
津久井商工会	キエーロ	土壌混合型
	キエーロスリム	
パナソニック（株）	リサイクラー	電動式　乾燥型
島産業（株）	パリパリキューブライト	
リブラン	エアドライ	
（株）サクラエコクリーン	環境エコ美人	電動式　バイオ型
スターエンジニアリング（株）	バイオクリーン	
(株)フォレストバイオテック	respo（リスポ）	

※平成３０～令和元年度調べ